

# 岡崎市の入札制度に関する中間報告書

(令和3年度 審議のまとめ)

令和4年2月4日  
岡崎市入札監視委員会

## 1 はじめに

岡崎市入札監視委員会（以下、「委員会」という。）は、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律に基づく第三者機関として、平成19年4月に設置された。

委員会の目的は、岡崎市（以下、「市」という。）が発注した建設工事等に関する入札契約手続きの運用状況について、公正中立の立場で、客観的に審査を行うことである。委員会は、任期2年の委員4名で構成され、今年度で第8期目である。委員会では、各期末の総括として「入札手続き等に対する意見書」を市に提出し、入札制度に関する意見の具申を行っている。

そして、上記「意見書」が隔年策定のものであることから、年々変化する社会情勢および入札状況に機敏に対応するために、「意見書」策定年次と交互の年次に、現時点までの委員会における審議内容や、今後、注目すべき事項等を「中間報告書」としてとりまとめているものである。

## 2 令和3年度の審議総括

委員会の活動は、監視対象案件から審査案件を抽出し、個別に詳細な審査を行うものである。令和3年度の第3四半期までの審査状況は、全監視対象の451件の内26件（全体の約5.8%）を実施した。（資料1）

建設工事について令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、先行きが不透明な状況であることから、着手済みの既存計画の実施を最優先とする事業の選択が実施された。具体的には、市営住宅新築工事、豊富保育園改築工事、岡崎小学校校舎増築工事など前年度から引き続く工期が長い大型案件や、老朽化した水道管路や下水道施設の耐震化、長寿命化を目的とした工事発注等が実施されたが、年間発注件数で見ると令和2年度に比較し、3割程減少している状況である。

落札率は、昨年度と比較すると、約0.8%低下しており（資料2）、平均入札参加者数は0.4者上昇している。その中でも特に管工事と水道施設工事の落札率が大きく低下している。要因の一つとして、昨年から続く新型コロナウイルス感染症により、海外の工

場の操業が停止した影響と推測される。その具体例として、住宅設備機器大手が相次いで商品の納期延期を余儀なくされ、このあおりを受ける形で業界全体に影響が波及し、製品の納品待ちとなったことで、民間工事における事業者の売上が減少した。その結果、公共工事への参加意欲が高まり、競争が激しくなったことで落札率が低下したと考えられる。

落札率がほぼ横ばい状態であった土木工事や建築工事については、前年度からの継続となる大型案件により、必要最低限の事業量の確保ができていたため、昨年と同程度で推移したと考えられる。

今期の入札不調に関しては、令和2年度が4件で、令和3年度は12件であった。業種は水道施設工事、とび・土工工事及びコンクリート工事に集中している。

不調の理由としては、「最低制限価格未滿」が5件、「入札参加者なし」が4件、「書類不備」が3件であった。参加業者が全て最低制限価格を下回る応札をした「最低制限価格未滿」については令和2年度では見られなかった理由であり、コロナ禍を背景とした過当競争による結果と言える。「入札参加者なし」については技術者不足の中で、発注の時期により技術者の配置が難しかったことも理由の一つと考えられる。

建設コンサルタント業務については、落札率が昨年度と比較して、1.0%上昇している(資料3)。

この理由としては、従来の変動型最低制限価格制度を廃止し、最低制限価格を下回った入札をすべて失格とする最低制限価格制度へ改正したことが大きな要因であると考えられる。

入札不調に関しては、指名競争入札により発注したコンサルタント業務で、今年度3件あり、そのすべてが全業者の入札辞退であった。

この理由としては、設計金額のわりに難易度が高く、手間がかかる上に制約も多いことに加え、技術者も不足していることから敬遠されたものと推測する。

### 3 現行制度に関する提言

当委員会は、公平中立的な立場で入札及び契約の状況を監視すること、即ち、現行の入札制度の透明性を確保することが基本的な任務であることはいうまでもないが、そのことにとどまるのではなく、入札制度の更なる改善を促す責務があると考えます。

コロナ禍において、民間事業では需要の低下による競争の激化で受注が減っている状況は昨年と変わっておらず、公共工事においても本市では発注件数が減少している。

このような状況下での行き過ぎた競争は、入札不調を増加させ、事業の停滞を招くだけでなく、企業の適正な利潤を削り、そこで働く人々の雇用にも悪影響を及ぼす可能性がある。

近年、建設業界においては全国的に人手・人材不足が顕著であり、将来の担い手確保が急務となっている。

このような課題に対しては、行政施策だけでは限界があるところであり、各企業の自助努力ぬきにしては解決できない問題であると考えます。

こうした事情をふまえて、当委員会は、市が中長期的な視点をもって、各企業が、労働環境の改善ならびに経済成長を促進する持続可能な取り組みの動機付けとなるような、言い換えれば、企業が主体的に技術力・経営力を向上させようという意欲を後押しするような施策の検討を期待するものである。

また、入札辞退の多い建設コンサルタント業務の指名競争入札による発注も、競争性の確保をすべく早急な対策が必要である。

以上のことから、当委員会は、次の3点を中間報告の提言として具申する。

#### 提言

【1】 全国的な課題である、建設業界の人材・人員不足、特に若年層の就業者が少ない現状を変えるには労働環境の改善が必要不可欠であることから、まずは建設工事の現場環境改善を促すという観点から、従来より岡崎市が進めている週休二日制工事の件数を増やすための方策を検討されたい。

【2】 SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた取組が世界的に注目される中、2020年7月に岡崎市は、内閣府より「SDGs未来都市」に選定された。愛知県内では5番目の選定となり、今後達成に向けた取組を先導的に進めていくことが求められている。

SDGs達成に向けては、市と企業が連携して取り組むことが必要で、各企業がそれぞれの有する資源や知見等を生かし、持続可能な取組や活動を推進するとともに、SDGsの普及啓発を図ることが重要となる。

SDGsは17の項目があり、1つの取組や活動が複数の項目に該当するといった場合も想定されるため、それをどう総合評価での項目として評価するのか、もしくは総合評価値でどのように加点するのかなど課題も多いが、先進自治体の事例などを参考にしながら、SDGsに取り組む企業に対して入札におけるインセンティブを検討されたい。

【3】 入札参加者が1者という案件が散見されるようになり、特に建設コンサルタント等業務の指名競争入札については入札の参加を辞退する事業者も多く、その結果、1者応札若しくは入札不調が多発している。入札参加者数の少ない案件は、比較的落札率が高い状況であり、競争性が低下しているとも言える。そのため、入札参加者を増やし、競争性を高める入札制度を検討されたい。

**資料 1**

**【入札監視委員会の開催状況】**

開催回数	開催日	議事内容	監視案件数 (監視対象数)
第 1 回	令和 3 年 7 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員の委嘱、委員長の選出</li> <li>・ 入札制度の変更点</li> <li>・ 抽出案件に関する審議</li> <li>・ 入札参加停止の状況</li> </ul>	工事 6 件 コンサル 3 件 役務 5 件 (260件)
第 2 回	令和 3 年 11 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抽出案件に関する審議</li> <li>・ 入札参加停止の状況</li> <li>・ 中間報告書の提言について</li> </ul>	工事 6 件 コンサル 5 件 役務 1 件 (191件)
	合 計		26件 (451件)

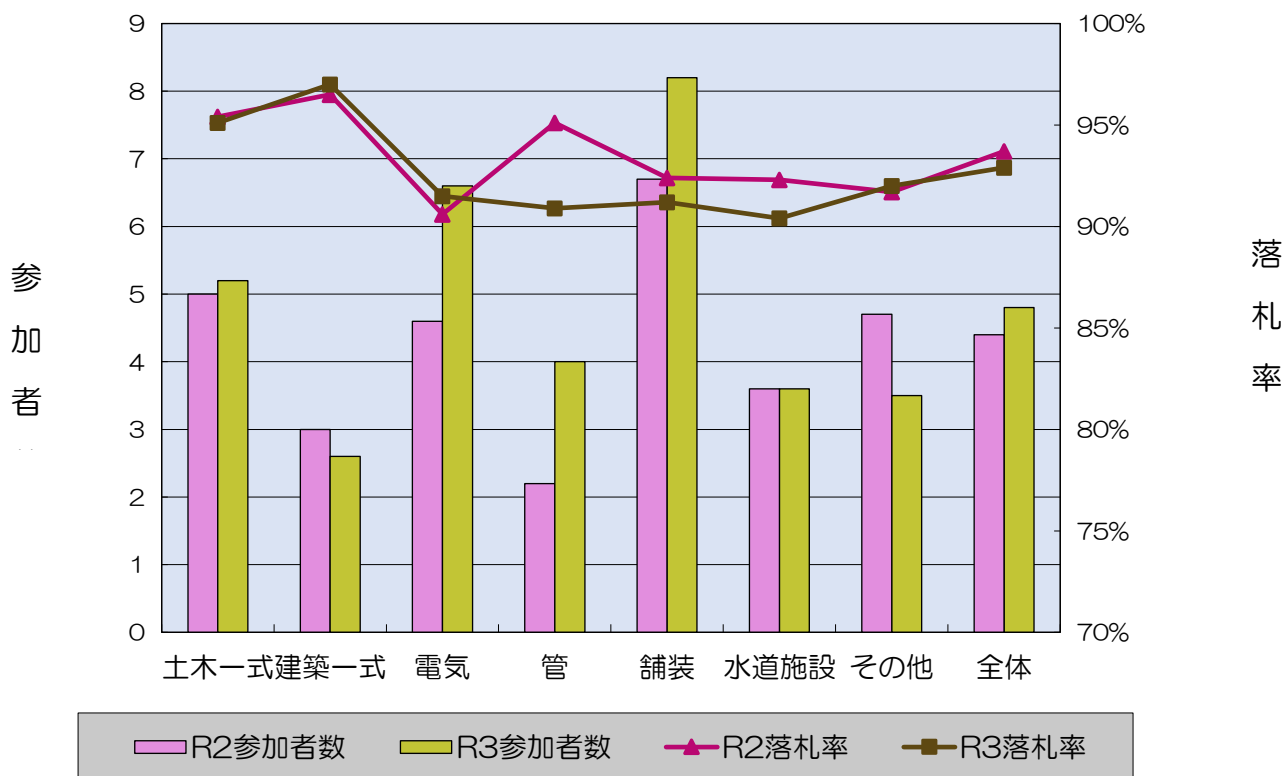
資料 2

【令和2年度及び3年度 入札参加者数及び平均落札率の比較（建設工事）】

令和4年1月1日現在

項目	年度	業 種							
		土木一式	建築一式	電 気	管	舗 装	水道施設	その他	全 体
平均参加者数	R3	5.2	2.6	6.6	4.0	8.2	3.6	3.5	4.8
	R2	5.0	3.0	4.6	2.2	6.7	3.6	4.7	4.4
	比較	+0.2	▲0.4	+2.0	+1.8	+1.5	0	▲1.2	+0.4
平均落札率	R3	95.1%	97.0%	91.5%	90.9%	91.2%	90.4%	92.0%	92.9%
	R2	95.4%	96.5%	90.6%	95.1%	92.4%	92.3%	91.7%	93.7%
	比較	▲0.3%	+0.5%	+0.9%	▲4.2%	▲1.2%	▲1.9%	+0.3%	▲0.8%

主要6業種の前年度との比較（落札率・参加者数）

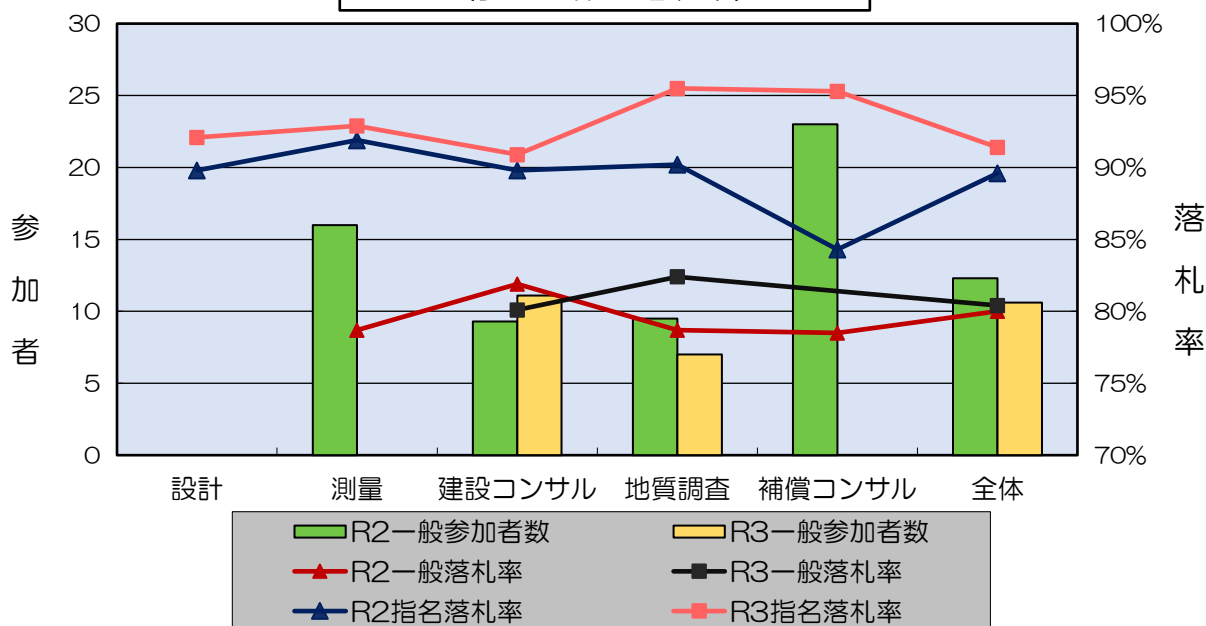


資料3

【令和2年度及び3年度 入札件数、平均参加者数及び平均落札率（建設コンサルタント業務）】  
令和4年1月1日現在

項目	年度	種別	部門					
			設計	測量	建設コンサル	地質調査	補償コンサル	全体
入札件数	R3	一般	0件	0件	14件	2件	0件	16件
		指名	14件	7件	95件	1件	4件	121件
	R2	一般	0件	1件	3件	2件	1件	7件
		指名	19件	10件	122件	3件	8件	162件
平均参加者数	R3	一般	0	—	11.1	7.0	—	10.6
	R2	一般	—	16.0	9.3	9.5	23.0	12.3
平均落札率	R3	一般	—	—	80.1%	82.4%	—	80.4%
		指名	92.1%	92.9%	90.9%	95.5%	95.3%	91.4%
		合計	92.1%	92.9%	89.6%	86.8%	95.3%	90.2%
	R2	一般	—	78.7%	81.9%	78.7%	78.5%	80.0%
		指名	89.8%	91.9%	89.8%	90.2%	84.3%	89.6%
		合計	89.8%	90.7%	89.6%	85.6%	83.7%	89.2%

建設コンサルタント業務の入札状況  
(参加者数・落札率)





資料 4

【令和2年度及び3年度 入札件数、発注金額、平均参加者数及び平均落札率の比較（役務業務）】

令和4年1月1日現在

業務名	年度	入札種別	入札件数	発注金額 (百万円)	平均 参加者数	平均落札率
役務業務	R3	一般競争 (価格競争)	25 件	96	2.8	94.8%
	R2		39 件	245	5.3	89.8%
	比較		▲14 件	▲149	▲2.5	+5.0%
	R3	一般競争 (総合評価)	6 件	247	4.2	91.2%
	R2		15 件	479	5.3	93.2%
	比較		▲9 件	▲232	▲1.1	▲2.0%
	R3	指名競争	136 件	1,638	3.8	91.1%
	R2		188 件	4,195	4.2	92.3%
	比較		▲52 件	▲2,557	▲0.3	▲1.2%
	R3	全体	167 件	1,982	3.6	91.7%
	R2		242 件	4,919	4.4	91.9%
	比較		▲75 件	▲2,937	▲0.8	▲0.2%

役務業務の前年度との比較（参加者数・落札率）

